

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成25年2月 第144号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

認知症の人と終の棲家

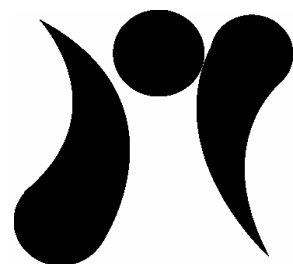
—他者を信頼する心を原点として—

日本は今、超高齢社会を迎え『主役として人生を締め括るのに相応しい住まい』が大きな課題となっています。高齢者には、人生を締め括ると同時に次の世代に社会を引継ぐという、命と引替えに行う大切な役目があります。その役目を果たす為のステージが『終の棲家』であり、其処での生活です。

人は永く生きる程に、心身ともに衰えが目立ち始めます。老いは自然の摂理であり、全ての生物が枯れて自然に還り、他の生物の肥しになります。『人が枯れる』とは、人間としての深みがでることを意味し、人にとっては枯れる過程も他者の肥しになります。枯れる過程で介護を通して、次世代の人が老いと死について想いを巡らせ、死者を偲ぶ心を養い、思想を育みます。介護する過程は介護者の思想を問い、人間性を測る場面を次々と生み、思想と文化を育む母体の役を果たします。其処で生まれた思想が文化を創り、次の世代が築く社会の基礎と成り、新たな生命の誕生と育成を支えます。命より大切な役目です。

世代をつなぐ大切な宝物は、命そのものではなく、命を取り巻く暮らしの中に、生活を彩る環境の中に潜んでいます。バス・トイレ・キッチン、生活を彩る三種の神器です。生活を実感する場面と、充実感のある暮らしを創る必需品です。風呂場の湯気の籠もった温かさに幼時の思い出がよみがえります。コトコトコトとまな板の上で包丁が発てるリズムカルな音は、お母さんの音です。トイレは一人で安心して泣ける場所でした。終の棲家では、家族の気配を感じ、生活の雰囲気にも包まれて、生きている事を実感しながら安心して、主役として人生を締め括りたい、と願います。

そして更に、適度な距離と密度のコミュニティーで他者との関係をつなぎ、社会の一員として最期を迎えたいとも願います。隣人と交わす会話やご家族の訪問、介護サービスを利用する時間、近隣への散策や買物は、多様な社会関係をつなぐ貴重な時間です。そして自然の一員として自然に還ります。(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

老いて要介護になり、認知症になっても、主役としての自立した生活を求めて、世界の社会保障施策は『保護と管理』から『自立支援』へと、大きく動いて来ました。住宅と医療・看護・介護をセットで提供する病院・施設中心の施策から、治らない病気や障がいと付き合いながら、自宅で医療・看護・介護を自分なりに利用して、社会の一員として最期まで生活する地域ケア中心の施策へと、大きく転換しています。

世界中の人が、例え認知症であっても妥当なリスクを引き受けて、主役で在り続ける生活を模索し、認知症の人が自立した一個の社会人として、人生を締め括る途を探っています。『認知症になった時どの様に生きるのか』、『認知症の人をどの様に介護して共生するのか』、『事故に会うリスクを回避する責任を他者が背負うべきなのか』、世界共通の課題に対して『サービス付き高齢者向け住宅』と『ケアハウス』で一つの応えを示したい、と願っています。

人生の最終場面を過ごす『終の棲家』は、思想と文化を育み、次の世代に伝える、貴重な生活空間です。車いすの老人や認知症のお年寄りとすれ違う子供達の心の底に何かが残し、永い年月をかけて心の中で生まれ、いつの日か思想として現れます。老いて人生を締め括る営みは、『檜山節考』が描く様に、これから生まれる子供に夢と希望を残す営みです。子供達には負債を残すのではなく、思想や文化の種をまいて夢と希望を残しておきたい、と心より願います。

我々が街に出かける時、行き交う車の運転手を信頼して、交通事故に会うリスクを自らが引き受けて歩いています。認知症の人は、我々よりももっともっと大きな信頼感を他者に寄せて生きています。強い不安と自ら折り合いながら他者に全てを委ね、主役として懸命に生きています。その姿は、他者に迷惑を掛けているのではなく、他者への信頼感の現れです。

『他者への信頼感』は、社会を構成して生きる人間にとって、最も重要な生きる力です。認知症になっても最期までその身に残っている『他者への信頼感』を真正面から受け止める力を介護現場で育み、其れに応える思想を蓄え、地域の人々に伝えて広げ、子供達の記憶にも残しておきたい、と願います。それが地域包括ケアシステムの原点になる介護だと確信します。認知症の人は地域包括ケアを導く伝道師のようにも思えます。

『リバティかこがわ』は、平成3年の開設以来20年の実績を重ねて来ました。認知症の人も含めて既に多くの方が『終の棲家』として利用され、天空から見守る多くの笑顔が目に見えます。『ケアハウスせいりょう園』も平成8年に開設し、多くの人を看取ってきました。今も『終の棲家』と定めてお住まいの方々が居られます。その隣接地に今年、サービス付き高齢者向け住宅『自愛の家さくら』の建設を予定しています。

特養を母体として事業を始めたせいりょう園が、特養で培う介護の力を中核にして地域ケアへの広がりを工夫し、次の世代に社会をつなぐ途を探ります。他者を信頼する心を原点とする終の棲家として『リバティかこがわ』『ケアハウスせいりょう園』『自愛の家さくら』を提供し、例え認知症になっても最期まで暮らし、せいりょう園の介護スタッフが適度な距離でサポートする仕組みを確立して、隣人やご家族と協働して『他者への信頼感』を地域の人や子供達に伝える役割を果たしたい、と願います。そして特養やグループホームの暮らしも、地域ケアと共通する適度な距離で主役の自立を支え、思想や文化の根を地域に残したいと願います。

せいりょう園 渋谷 哲



～Nさんの看取りについて～

特別養護老人ホームユニットリーダー
別府 克彦 (介護福祉士)

Nさんは9月25日にユニットに入所され、12月21日に亡くなりました。私達とは3ヶ月にも未たない短い関わりとなりました。以前に問題行動があつて、入所時には薬による行動抑制がありました。せりりょう園の理念とユニットでの落ち着いた暮らしぶりから、しばらくしてそれはなくなりました。それからは笑顔が増え、表情豊かになり、会話することはほとんどない状態でしたが、良い関係が築き出せていたと思います。

Nさんは12月15日に採血の数値が悪い為、検査した結果、末期の肝臓ガンで余命2ヶ月と突然の宣告を受けます。その2日前には買い物外出にも出かけていましたので、職員全員は大変驚きました。その翌日から状態が急激に変わっていくことに戸惑いを感じました。私たちも肝臓ガンとはどういったものなのか？吐血・熱発・痛み等の症状が出てくるが、どのように対応していけばいいのか？ご家族と話し合いを行い、緩和ケアで終末を迎えることになりましたが、全体での話し合いを行う直前の12月21日に亡くなりました。とても早い別れとなり、私はNさんのターミナルケアに対して十分なケアが行えたかどうかという複雑な気持ちが残っていました。

亡くなる当日、朝食時には「おはようございます」「おいしいです」等、話をしてくださいましたが、しばらくするとわずかですが、呼吸が荒くなり始めます。今すぐ亡くなるという状態ではなかったのですが、ご家族に電話し面会をお願いしました。その際に、「今すぐに向かったほうがいいですか」と問われ、その状態から「今すぐといったわけではないのですが・・・」と返事しましたが、その3時間後には下顎呼吸になり亡くなりました。ご家族はなんとか間に合い、最期の時をNさんと過ごすことはできましたが、看護師からは「そういった場合は、“今すぐ来て下さい”でいいと思うよ。家族が側にいるということも緩和ケアの一つではないかな」といった言葉をもらい、考えさせられました。

病気が分かる少し前より、トイレに対し以前に比べて拒否がみられたり、食事を自身で食べない日がある等、小さい変化ではありましたが、対応を変えた方が良いのでは？と考えていた職員もいました。また、Nさんの記録を読み返すと、亡くなる前の1週間はベッド臥床して過ごし、痛みのために苦しんでいることも多かったのですが、職員との関わりでは笑顔を見せてくれるという記録が多く残っていました。

私たち介護職で一番大事なことは“小さな変化に気が付く”ということです。毎日利用者と接していると、とても難しいことで、一瞬の小さな違和感が後々大きい変化に結びつくということが多くあります。意思疎通が困難な方ではありましたが、私達はNさんの気持ちや小さい変化を感じ、コミュニケーションを図れていたと改めて思いました。

私たちとは短い関わりとなりましたが、Nさんの長い人生の最期を看取り、そこから多くのことを学べたと思います。今回の経験・想いを大事にし、活かしていきたいです。

＊ ＊ せりりょう園空き情報 ＊ ＊

- ケアハウスせりりょう園：4室（バス・トイレ・キッチン付 25㎡）
- リパティかこがわ：4室（バス・トイレ・キッチン付 33㎡・35㎡）
- グループホーム：1室（バス・トイレ・キッチン付 30㎡）
- グループホームまどか：1室（トイレ付 15㎡）

【問合先】 せりりょう園介護相談室 Tel.(079)421-7156 / (079)424-3433





テーマ「せいりょう園で行うことのできる治療」

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

厚生労働省の統計を見ますと、平成23年の死亡数は125万3,463人だそうです。その内、病院で亡くなる方が8割なので約100万人の方が病院で亡くなっていることとなります。残りの2割の内、1割は自宅で亡くなり、もう1割は高齢者施設等で亡くなっているそうです。

私たちの臨終のイメージとして、最期は病院のベッドで医師、看護師、家族に囲まれて亡くなっていく、というようなイメージを持っている方も多いと思います。しかしながら、実際には、病院は治療を行う場所であり、治療の必要のない、所謂、自然な老衰を迎える方が最期を過ごす場所ではありません。

では、自然に安らかに亡くなることが出来、尚且つ、緩和的な治療を施せる場所とはどこなのでしょう。多くの方は自分の家、と答えると思いますが、選択肢としてせいりょう園のような高齢者施設がその場所の一つになると思います。老衰として亡くなっていく場面において、せいりょう園ではこういった治療が出来るか、皆さんとお話しました。

【老衰とは・・・】

一般的に年齢を重ね、身体に衰えが生じ自然に亡くなっていくことを老衰と呼びますが、「自然に亡くなる」という状態がこういったものか、なかなかイメージがつかないことだと思っています。

老衰は、体内の衰えとして、内臓の機能が低下していきます。ご飯を食べても消化し吸収する機能が徐々に弱くなっていき、飲み込みも悪くなります。吸収出来ない食べ物は異物となり、腎臓が機能しない為、排泄も出来ず、本人自ら食事を拒否される方もいらっしゃいます。最後は余分な肉が削ぎ落ち、骨と皮の状態になります。つまり、老衰とは、体内の臓器が機能しなくなり、食べることが出来なくなり、自然な形で枯れるように亡くなっていくことをいいます。

臨終の際には、肺の機能も落ちているので血中の酸素濃度は元気な方で99%のものが、80%代に落ち込み呼吸も荒くなり肩呼吸、顎で喘ぐような下顎呼吸へと変わっていきます。今まさに命が尽きるであろう、最期の力で呼吸されているように思われます。

以上のようなターミナル状態が、ゆるやかに訪れる方もいらっしゃれば、急変される方もいらっしゃり、期間に関しては個人差があるように思います。ただ、ほとんどの方は、老衰の状態に至るまでの過程の中で様々な出来事が生じています。たとえば、風邪をこじらせ肺炎となったり、脳梗塞を発症したり、もしくは転倒などの出来事がきっかけでレベルの低下を生じていきターミナル期へ移行することがほとんどです。高齢に伴う様々な出来事は、老衰の準備段階の過程であるといえるのではないのでしょうか。

【せいりょう園で行うことのできる治療】

せいりょう園では「看取り介護計画に関する同意書」という同意書をいただいています。これは平成18年の介護保険法改正の際に看取りを行う老人ホームでは看取り介護の同意書をいただくことになりました。看取りの際には、ご本人に判断していただくことが難しいため、この同意書はご本人の同意ではなく、ご家族の同意になります。この同意書を元に、

せいりょう園での最期をご家族に考えていただいています。

同意書の中にはせいりょう園の看取りに関する介護理念のほかに、囑託医の指示のもと、せいりょう園で出来る範囲内の治療について書かれています。

○酸素吸入

肺の機能が落ち、酸素を血中に取り込むことが出来なくなるので、酸素の濃い空気を吸っていただけます。

○水分補給点滴

この点滴は、栄養ではなく、水分になります。食事や水分も口から摂取出来なくなる為、点滴として注入します。しかし、腎臓の機能も弱っている為、排泄することが出来ない状況になり、体内に老廃物として残り、手足の末端が水ぶくれの状態になります。もしくは、血管自体が細くなり針が注せない状況となる為、医師、看護師と相談しながら止めることも必要になってきます。

○抗生剤等の投与

ターミナル期において、避けて通れないのが、誤嚥性肺炎であります。飲み込みが出来にくい咽こむ状況の中で、食物や唾液の中にある雑菌が気管や肺に入ることによって炎症が起り、肺炎につながります。抗生剤の投与や注射を行うことで、重症化しないように炎症を抑えます。せいりょう園では口腔内の雑菌を抑える為に口腔ケアに力を入れています。

○苦痛緩和治療

末期がんの方には、医師の指示によりモルヒネなどの麻薬を処方することができます。簡単な貼り付ける形のパッチ式の物もあります。

ご本人にとって、苦しみのない安らかな最期は、どのご家族も望まれていることだと思います。ご家族の心情はその都度揺れ動くことだと思います。紹介した治療以外にも医師と相談しながら、治療方針をその都度決めていただくこととなります。

感想

人がどのように亡くなっていくかを私たちは知っています。ご家族がご本人のことを大切に思っているからこそ、事実を伝えたいと思っています。

一緒には過ごしてはいませんが、せいりょう園で過ごすご本人に寄り添うことで、どのような生活をして、人としてどのように亡くなっていくのか、その姿を見ていただけるのではないかと思います。自宅や病院では出来ないことが、せいりょう園では出来る。ご本人、ご家族の思いに寄り添う事の出来る専門職になりたいと思っております。

**** 鍼灸マッサージ治療センターのご案内 ****

料 金：3,000円（30分程度のクイックマッサージ及び部分治療）

5,000円（60分程度の針を含む総合治療）

時 間：13:00～17:00 施術者：加茂正章・橋本圭弘

休 日：加茂：第2・第4土曜日、日曜日

橋本：金曜日、日曜日、祝日

場 所：加古川市野口町長砂95-2リバティかこがわ2階

要予約：電話にてご予約下さい。

連絡先：090-8238-8511（加茂直通）

079-421-7156（内線59加茂/内線58橋本）



腸内細菌のいろいろ

我々の腸には約1,000種類、約100兆個もの細菌が住んでいると言われる。これを重さに換算すると約1.5kgにもなるようだ。その主なものは、ビフィズス菌とかラクトマチフス菌などの乳酸菌であるが、その他にも存在する多数の菌は、ほとんどのものが日和見菌で、普段は人体には何も害を与えない。ところがこれに大腸菌のような悪玉菌が加わると、その多少あるいは組み合わせによってそれらのバランスに対応して病気を発生することがある。

腸は単に食べ物を消化するだけではなく、病原菌に対して免疫を働かすところでもあり、腸内細菌が腸の免疫系を刺激して病気になることを防いでいる。これは病原菌を叩くというよりもむしろ免疫系を活性化しているという方が正しいかも知れない。そして免疫細胞を必要とする各所に配る役割も担っている。

腸内に存在するヨーグルトは牛乳を発酵させて作るが、それを作る細菌の種類によって腸内環境との間に相性があり、人によって体調を損なうことがあるようだ。それ故に、なるべく善玉菌を増やし、悪玉菌を少なくするようなバランスを組み立てるよう配慮すべきである。その一つの方法として、例えばオリゴ糖のような物質は善玉菌の餌にはなるが悪玉菌の餌にはならないので、これを与えるようにするのもまことに好都合で有益な方法である。

ブルガリアの長寿者の食生活から、牛乳をある種の方法で発酵させて作ったヨーグルトが長寿に貢献していることがわかってきた。しかし、このヨーグルトは先にも述べたように、人によって合う、合わないの相性があり、体調を損なうことがあるようだ。それ故にこれらの菌と人との相性により、痩せる人もあれば、太る人もいる。ここで活動している菌は古くからここに存在して働いているので、生きるための哲学、例えば宿主、すなわち人間と共存する知恵をもっているものもあるのではないだろうか。

腸内細菌はストレスや飲食物その他の外的刺激によって神経系やホルモン系その他の系統にも影響を及ぼしかねない。腸内細菌の中で悪玉菌が増えてくると、面倒な病気がおこりやすくなることを認識し、悪玉菌を増やさず、善玉菌を増やすような配慮を欠かしてはならない。

われわれはみんな腸にたくさんの細菌を持っている。それらの細菌は宿主と共存して生きていこうとしている。その一環として、最近、日本人の腸内に日本人にしかない細菌が発見されたそうである。それは海草を分解する細菌のようで、他の人種には決して見当たらない目新しい菌のようだ。この菌の効用の詳細はまだよく分かってはいないが身近な菌だけに幸せを運んでくれるような菌であって欲しいものだ。

また母乳にはカルシウムと共に免疫を助長するオリゴ糖がたくさん含まれている。これが腸に達するとそこで増殖する腸内菌、常駐善玉菌を増し、免疫を高めるようだ。それ故にこれを第2のゲノムという人がある。それほど腸内細菌は人間の生命と深くかかわっているのである。話が段々難しくなってきたので、この辺でお開き。

せいりょう園待機者状況

＜平成25年2月12日現在＞

○入所判定済み者 410名 (グループの内)

Iグループ…143名 IIグループ…159名 IIIグループ…108名

○入所判定済み者の現在状況

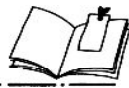
在宅168名/特別養護老人ホーム入所中12名/ケアハウス入居中4名

老人保健施設入所中97名/障害者施設2名/医療機関入院中109名

グループホーム入居中13名/所在不明5名

○辞退その他 せいりょう園入所2名/他施設入所3名/死去7名





新年明けましておめでとうございます。仏教講話は今月がスタートです。ところが私、久しぶりに風邪でダウンしてしまいました。2月の月初は公私ともに行事、イベントが重なっていたのですが、仕方なく代役をお願いしたり、欠席したりして、何とか過ごしました。しかし職場では、やれ「鬼の霍乱だ」、やれ「伊達の薄着だ」と、かまびすしいことでした。ついには家人までが「風邪がうつるからこっち向かないで」、と私に背を向ける始末。世の中少し落ち目になると風当たりの厳しいこと。身に沁みる思いです。

我らが「仏教講話」、本年も関係各位のご支援、ご協力を得まして続けさせて頂きたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。早速今月の講話ですが、お世話頂いております光念寺、本多ご住職のお骨折りにも拘らず講師の方のご都合がつかなかったので、今月は本多ご住職から薦められたDVDを鑑賞することにいたしました。タイトルは『泥の中の蓮であれ』。明治から昭和にかけて実在した一女性の悲痛、壮絶な一生を綴った作品であります。女性の名は『中村久子』。その簡単な紹介によると、(なかむら ひさこ、[1897年](#) - [1968年](#)) 明治～昭和期の興行芸人、作家。両手・両足の切断というハンデにも拘らず自立した生活を送った女性。またあの有名なヘレン・ケラーをして「私より不幸な人、私より偉大な人」と言わしめた女性とも紹介されています。

DVDに沿って概略を記します。久子は1897年(明治30年)11月25日、[岐阜県大野郡高山町](#)(現[高山市](#))で父・釜鳴栄太郎と母・あやの長女として出生した。2歳の時に霜焼けから凍傷にかかる。3歳の時にこの凍傷が元で[特発性脱疽](#)となる。手術すべきか否か、幾度となく親族会議が行われたが、決断を下さないうちに、左手が手首からポロリと崩れ落ちたという。その後右手も手首、左足は膝とかかとの中間、右足はかかどから切

断する。その後幾度も両手両足を切断し4歳の幼さで四肢を失う。激痛のため久子が泣き叫ぶ。近所からの苦情が絶えず、両親は転居を繰り返す。父親も職を失い、借金も増えていったが父は懸命に久子を可愛がった。しかし過労と心痛が重なり、ある夜突然父が亡くなる。久子7歳の時。8歳で母が再婚するが、義父からは疎んじられる。10歳の時一瞬のうちに光も失う。母親は一時久子を道連れに自殺も考えるが、背中で憤る子供のぬくもりを感じ一緒に生き抜く決心をした。必死の看病の甲斐あって久子の目は奇跡的に回復する。「手を使わずに飯を食うのは犬猫と一緒に」と近所の子供にののしられ、それからというもの箸はもとより縫い物、編み物、炊事、洗濯、掃除一切を母は厳しく鍛えた。18歳の頃にはほとんどの家事はこなせるようになっていた。「人間は働くために生まれてきたんや!」と云う母の言葉が久子の心に刻まれた。

しかし久子の働く場所は無く、その機会にも恵まれないため20歳の秋、旅芸人の一座で働く決心をする。見世物小屋で『だるま娘』の名で芸を続けることは、若い久子を深く傷つけた。その頃一人の若い青年から書道を教わる。最初に教わった言葉が「精神一到何事か成らざらん」。青年は絶えず久子に対して『泥の中の蓮であれ』と諭した。これは汚れた境遇にあっても、これに染まらず、清らかさを保つことの意味で、久子は生涯この言葉を深く胸に刻んで生きていった。しかし、晩年の久子の言葉によると「我が身への侮辱こそ宝であった」と、もう一段高い所の意味も感じます。この青年が後の大書道家『沖六鳳』だったのです。

北海道の巡業中、母あやの訃報に接する。その後久子24歳で結婚。そのうち女性雑誌に投稿し入選する。副賞に義足を贈られ、初めて自分の足で地面に立つことは何事にも勝る喜びであった。しかし、27歳の時夫が

病死する。乳飲み子を抱えた久子は『子を持って知る母の深い愛』を初めて感じる事ができた。それまでは久子を鍛える『鬼』でしかなかった母に……。

1937年、久子40歳の時『中村久子後援会』が発足。その後は旅芸人をやめ、自分の半生を語る地方公演を始める。1965年69歳の時、飛騨高山の国分寺に亡き母そっくりの悲母観音を建立する。1968年72歳で永眠する。

久子の次の詩を最後に記して今回は終わります。

ある ある ある
さわやかな秋の朝

「タオル取ってちょうだい」
「おーい」と答える良人がある
「ハイ」という娘がおる
歯をみがく 義歯の取り外し
かおを洗う
短いけれど指のない
まるいつよい手が
何でもしてくれる
断端（きれはし）に骨のない
やわらかい腕もある
何でもしてくれる 短い手もある
ある ある ある
みんなあるさわやかな秋の朝

** クラブ活動のご案内 **

せいりょう園では、日々の生活がより豊かなものになるように、ボランティアや講師の方々にご協力いただきながら、様々な活動を行っています。この活動に、地域の方々にもご参加いただきたいと思いご案内いたします。

お気軽にお電話ください。Tel079-421-7156

①のびのびルーム

場所：特別養護老人ホームせいりょう園1階 13:00~14:00

内容：月・木曜日-自彊術、火曜日-映画会、水曜日-カラオケ

料金：1回500円（最後に飲み物が出ます）

②書道教室

日時：第1・第3火曜日 13:00~14:00

場所：特別養護老人ホームせいりょう園1階

料金：1回100円

③ピアノ教室（ピアノの先生による演奏で歌の練習をします）

場所：リバティかこがわ2階 10:00~11:00

料金：無料



ケアハウス等空き情報 [平成25年2月15日現在]

・ 恵泉	: 1人部屋若干	・ 第二ケアハウス恵泉	: 1人部屋若干
	: 2人部屋若干	・ 虹ヶ丘 はりま	: 1人部屋2室
・ ケアハウスアリア	: 1人部屋2室	・ 青山苑	: 1人部屋2室
・ キャッシル真和	: 1人部屋2室		: 2人部屋2室
・ めぐみ苑	: 1人部屋2室	・ サンライフ御立	: 1人部屋1室
・ ネバーランド	: 1人部屋3室	・ 清華苑湘南ライフ	: 1人部屋1室
	: 2人部屋2室		

[問合せ] せいりょう園介護相談室 Tel(079)421-7156/(079)424-3433